

奨励賞



頭井 © yukikazu ito.

設計担当者

頭井秀和

(株)日建設計 設計監理部門、東京建築士会

共同設計者

田中雄輔

(株)日建設計 設計監理部門
東京建築士会

水野悠一郎

(株)日建設計 設計監理部門
東京建築士会

研究所 (TIC)、事務所 (TEC) / 東京都昭島市

Kurita Innovation Hub Technology Innovation Center (TIC) + Technical Education Center (TEC)

構造 | 鉄骨造 (TIC)

鉄骨鉄筋コンクリート造・
鉄骨造 (TEC)

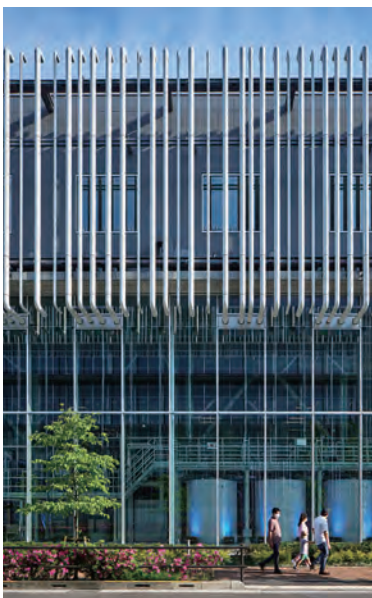
階数 | 地上5階・塔屋2階 (TIC)
地上3階 (TEC)

敷地面積 | 21,844.76㎡ (TIC)
8,536.61㎡ (TEC)

建築面積 | 9,724.32㎡ (TIC)
4,039.12㎡ (TEC)

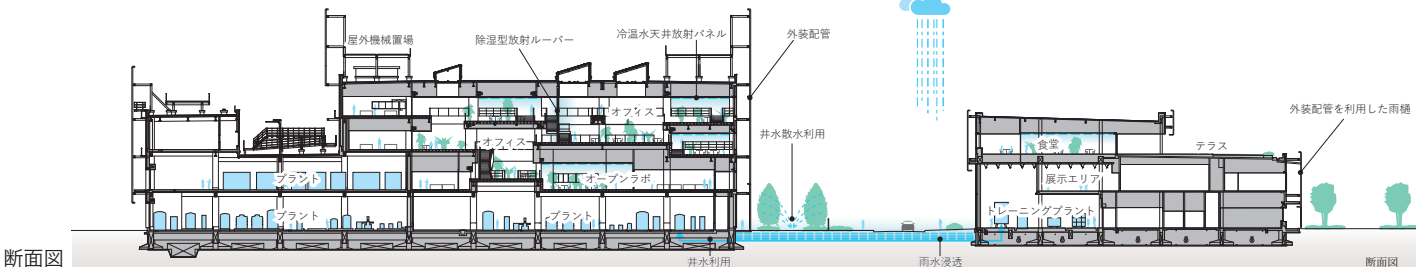
延べ面積 | 29,269.42㎡ (TIC)
8,698.54㎡ (TEC)

竣工年 | 令和4年



- 1 施設は大きく二つの建物で構成されており、公道を挟んで向かい合うかたちで配置されている。公道に対して開き、ガラスショーケースのような構成とすることで、水処理の取り組みや環境価値について発信し、人々を迎え入れる施設としている
- 2 建物を覆う配管形状のルーバーは日射遮蔽、目隠し以外にも排気や雨どいの機能を有している。径の異なる配管をランダムピッチに配置することで立面に揺らぎを生み出し、輪郭を和らげている
- 3 水の回収再生を行うプラント・雨水の浸透還元・地下水の利用により施設全体での水循環を作り上げている
- 4 オフィスはスキップフロアの構成とし、働くモードやアクティビティに合わせた空間を選択できる。再生水を、空調エネルギーの低減や居住環境の向上に活用している

写真1~4... © 関拓弥



選評

昭島市は水道に地下水のみを水源としている都内でも唯一のまちのことである。そのまちに水処理事業を展開する企業の研究開発拠点を置き、2棟の建物の群風景により水にまつわる街路景観の世界観を創り出している。

この世界観を発露している一つの要因は、公道を挟んで並立する2棟の統一されたファサードデザインである。外装は、日射遮蔽と目隠しを主機能とした、水処理で使用される配管がモチーフのアルミ押出型材の縦ルーバーで

覆われている。この縦ルーバーは、径の異なる配管がランダムピッチに配置され、柔らかい表情をつくり上げているとともに、排気や雨樋としても利用されている箇所もある。

二つ目の要因は、公道に面したガラスカーテンウォール越しに水浄化のトレーニングプラントを設置し、機能を公道に対して開くことで水処理の取り組みを外部に発信していることである。建築の機能としても、雨水の敷地内浸透と地下水利用、排水回収と水処理設備を用いた

水の再利用という水資源の循環を生み出すことで、ゼロウォータービルディングへの取り組みを示している。再生水を利用した天井放射パネルと除湿型壁放射ルーバーにより快適な居住域環境を実現した執務空間は、スキップフロアの構成とし実験室とオフィスの行来を活性化させる魅力的な空間となっている。

水環境資源への取り組みという企業アイデンティティの発信性の強い建築の好例である。

(菅 順二)